

先週の礼拝メッセージ(2023年7月2日) ベン牧師

「いざという時」 ヨハネによる福音書 19:38-42

今日は、アリマタヤのヨセフ(以後ヨセフ)に焦点を当ててみたいと思います。

イエス様が十字架で息を引き取られたのは午後3時です。季節は3月ごろですから、日没まで二時間ほどでしょうか。当時は日没から1日が始まりますから、後数時間で安息日が始まります。ですから急いで日没前に埋葬まで済ませなければならないのが、この時の状況です。

「イエスの弟子でありながら、ユダヤ人たちを恐れて、そのことを隠していたアリマタヤ出身のヨセフが、イエスの遺体を取り降ろしたいと、ピラトに願い出た。ピラトが許したので、ヨセフは行ってイエスの遺体を取り降ろした。」(38節)

本来、十字架刑という極刑に処せられた犯罪人の遺体は、穴が掘られて、ローマの兵士によってそこに投げ込まれました。しかし、ヨセフによってイエス様の遺体は穴に投げ込まれる前に引き取られたのです。ここにも神様の業があらわされています。実は、このことは旧約聖書に預言されているのです。

「その墓は悪人どもと共にされ、富める者と共に葬られた。」(イザヤ53:9)

犯罪人と共に投げ込まれる用意がされていたのに、ヨセフという金持ちの墓に葬られたのです。まさにイエス様の葬りは、この預言の成就なのです。この事一つとっても、神様はイエス様が救い主であると指し示しておられることがわかります。

さて、ヨセフの信仰はどのようであったかを見てみましょう。模範的な力強い信仰者、というわけではありませんでした。なぜなら彼は「ユダヤ人を恐れて」自分の信仰を公けにできなかったからです。しかし、今までイエス様のためならたとえ火の中水の中、命も惜しくないと信じていたイエス様の弟子たちでさえ、1人残らず逃げてしまっていた中で、彼は立ち上がったのです。自



らの信仰を表明したのです。ヨセフはユダヤの最高議会のメンバーでした。ですから、この時にピラトの元に行ってイエス様の遺体の引き取りを願い出ることができる立場にいるのは、ヨセフしかいなかったのです。彼はイエス様の遺体が犯罪人と一緒に穴に投げ込まれてしまうということがいたたまれなかったのでしょうか。彼の今までの信仰は、人を恐れるゆえに、誰にも証できませんでした。しかし、自分しかいないという「いざ」という時、彼は行動を起こしたのでした。神様は彼の行動によって、メシアの預言の一つを成就されました。彼のその後は聖書に記されていませんが、間違いなく、ユダヤの議員だった彼は苦しい立場に追い込まれたでしょう。なぜなら、ユダヤ議会がイエス様を殺すことを決議したのです。その時、ヨセフとニコデモ(39節)のふたりだけが、イエス様殺害に反対したのです。そして彼は、ピラトにイエス様の遺体の引き取りを願い出ることによって、自分の信仰を公に表明したのです。明らかに彼のこれからの生活は大変になったでしょう。この世的には、黙っていれば波風も立たず、窮地に立つこともなかったでしょう、しかし彼は黙って見過ごすことはできなかったのです。かつては人を恐れ、隠れキリシタンのような弱い信仰の彼でしたが、神様は彼のうちに働いてくださり、いざという時に立ち上がらせてくださったのです。

私たちも、一人ひとりにいざという時があり、その時も状況も違うでしょう。しかし、私たちが主を証ししようと願うなら、聖霊が働いてくださるのです。

ヨセフが、イエス様の遺体が放り投げられることに心を痛めた、その切なる願いは神に受け入れられ、神様は彼を大胆な行動へと導いてくださったのです。彼が立派な信仰者だったからではありません。いざという時に弱い私たちが証しし、感謝し、とりなし祈るなど、どんな小さなことでも私たちにできることをさせていただく時、そこに主は働いてくださるのです。そしてその時こそ、ピンチがチャンスに変わる時なのです。

「私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ。」(Ⅱコリント 12:9)
ハレルヤ! アーメン!